

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)Tステージ陣中町計画	階数	地下0階地上9F
建設地	愛知県豊田市陣中町2丁目20-3、20-4、20-16	構造	RC造
用途地域	準工業地域、準防火地域、居住誘導区域、都市機能誘導区域	平均居住人員	96人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2019年11月23日
敷地面積	910 m ²	作成者	小澤佳子
建築面積	349 m ²	確認日	2019年11月25日
延床面積	2,164 m ²	確認者	鈴木幸男



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

☆☆☆☆☆

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.7

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>25.5 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	25.5 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	25.5 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						建物全体・共用部		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点		重み 係数	評価点		重み 係数	評価点		重み 係数	全体
		評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点		評価点	評価点					
Q 建築物の環境品質														2.7
Q1 室内環境														3.3
1 音環境														
1.1 室内騒音レベル														3.0
1.2 遮音														3.0
1 開口部遮音性能														3.0
2 界壁遮音性能														3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														3.0
1.3 吸音														3.0
2 温熱環境														3.5
2.1 室温制御														3.0
1 室温														3.0
2 外皮性能														3.0
3ゾーン別制御性														3.0
2.2 湿度制御														3.0
2.3 空調方式														3.0
3 光・視環境														3.2
3.1 昼光利用														3.0
1 昼光率														3.0
2 方位別開口														3.0
3 昼光利用設備														3.0
3.2 グレア対策														3.0
1 昼光制御														3.0
3.3 照度														3.0
3.4 照明制御														3.0
4 空気質環境														3.5
4.1 発生源対策														3.0
1 化学汚染物質														3.0
4.2 換気														3.0
1 換気量														3.0
2 自然換気性能														3.0
3 取り入れ外気への配慮														3.0
4.3 運用管理														3.0
1 CO ₂ の監視														3.0
2 喫煙の制御														3.0
Q2 サービス性能														2.8
1 機能性														2.5
1.1 機能性・使いやすさ														3.0
1 広さ・収納性														3.0
2 高度情報通信設備対応														3.0
3 バリアフリー計画														3.0
1.2 心理性・快適性														3.0
1 広さ感・景観 (天井高)														3.0
2 リフレッシュスペース														3.0
3 内装計画														3.0
1.3 維持管理														3.0
1 維持管理に配慮した設計														3.0
2 維持管理用機能の確保														3.0
2 耐用性・信頼性														3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0
2 免震・制震・制振性能														3.0
2.2 部品・部材の耐用年数														3.0
1 躯体材料の耐用年数														3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														3.0
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0
2.4 信頼性														3.0
1 空調・換気設備														3.0
2 給排水・衛生設備														3.0
3 電気設備														3.0
4 機械・配管支持方法														3.0
5 通信・情報設備														3.0

3 対応性・更新性				0.2	3.0	0.29	3.0	3.0	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり				-	-	-	3.0	3.0	-	0.50
1 階高のゆとり				-	3.0	-	-	3.0	0.60	-
2 空間の形状・自由さ				3.0	3.0	-	-	3.0	0.40	-
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	-	-	3.0	0.50	-
3.3 設備の更新性				1.0	3.0	1.00	-	-	-	-
1 空調配管の更新性		②		-	3.0	0.17	-	-	-	-
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17	-	-	-	-
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.30	-	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	1.0	0.40	-	-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	0.40	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー				-	-	0.40	-	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			省エネ法等級4を満たしています。	3.0	4.0	0.33	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.17	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.82です。	3.0	5.0	0.33	-	-	-	5.0
4 効率的運用				0.1	3.0	0.17	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				-	-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング				3.0	3.0	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	-	-	-	-	-
集合住宅の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	-
4.1 モニタリング				-	3.0	0.50	-	-	-	-
4.2 運用管理体制				-	3.0	0.50	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	-	0.30	-	-	-	2.8
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水型便器を採用しています。	-	4.0	0.40	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	1.00	-	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	-	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.20	-	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	-	3.0	1.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体+軽鉄+仕上材のデテールを採用しています。	3.0	4.0	0.24	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-	-
1 消火剤				-	-	-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				-	3.0	0.50	-	-	-	-
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
LR3 敷地外環境				-	-	0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物と同等以上になりま	-	3.2	0.33	-	-	-	3.2
2 地域環境への配慮				0.3	2.8	0.33	-	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.5	0.25	-	-	-	-
1 雨水排水負荷低減		独自		-	3.0	0.25	-	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	-	-
3 交通負荷抑制		独自		-	3.0	0.25	-	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				-	1.0	0.25	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮				0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1 騒音		独自		-	3.0	1.00	-	-	-	-
2 振動		独自		-	-	-	-	-	-	-
3 悪臭				-	-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1 風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	-	-
2 砂塵の抑制				-	3.0	-	-	-	-	-
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20	-	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			広告照明を設けたり、外に漏れる照明を点滅させたりしません。	-	5.0	0.70	-	-	-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	-	-

重点項目スコアシート
 (仮称)Tステージ陣中町計画

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:25.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)Tステージ陣中町計

計画上の配慮事項	
総合	外皮に十分な断熱性能を施して熱損失を抑制すると共に、高効率機器を採用しています。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用し、化学汚染物質による空気質汚染を回避しています。
Q2 サービス性能	給排水配管において更新必要間隔の長い配管を使用したり、維持管理しやすい設計となっています。
Q3 室外環境(敷地内)	特になし。
LR1 エネルギー	設備に関してLED照明を採用するなど、高効率設備を導入し、環境負荷への配慮をしています。 また、外皮結果は等級4を満たしています。
LR2 資源・マテリアル	LGS+PBにして再利用向上へ取り組んでいます。躯体+軽鉄+仕上材の詳細を採用しています。
LR3 敷地外環境	特になし。
その他	特になし。